

第4回衛研シンポジウム開催 Rev1.8

「薬と化学物質のレギュラトリーサイエンス」－有効性と安全性を求めて－

企画調整主幹付 宮原 誠

7月25日(金曜日)、世田谷用賀の国立衛研の講堂で、第4回衛研シンポジウムが開催された。奥田晴宏副所長による当所の紹介の後、国立衛研の基礎研究部門と生活衛生分野から、最近の研究成果について5件の発表があった。最終的に資料を受け取った参加者数は約80名であった。川西徹所長は“猛暑の中、参加された皆様に感謝すると共に来年も開催したい”と締め括った。

この日は快晴で、日中の最高気温 34.8度と外を歩くだけで熱中症が心配される日和であったが、熱心な方々に参加して頂けた。奥田晴宏副所長は冒頭の挨拶で、“当所は140年という長い歴史を持つ研究所である。2018年川崎に移転する予定である。”と研究所を紹介し、レギュラトリーサイエンスを中核に、国立衛研を今後さらに発展させる決意を示した。

寺嶋 淳衛生微生物部長の司会で講演が開始され、後半から内藤 幹彦機能生化学部長の司会で午後5時過ぎまで講演が行われたが、時間の都合で総合討論は中止された。創薬の分子設計の講演に関連し、“近年バイオ医薬品が世界の医薬品売上の上位を占めているが、低分子医薬品の今後の見通しは？”生活環境をはかるでは、“重大事故とはなに？”，“携帯空間除菌剤の仕組みと原理は？”，国際的に注目された化学物質のリスクでは、“リスクをどのように考えるかは文化的な背景がある。欧米での考え方に何か特徴はないか？”，“我が国の場合、生活用品の安全情報はどのサイトをみればよいのか？”など、最新の安全性に関する

考え方やその情報に関する質問があった。

川西徹所長は閉会挨拶で、“本日発表のあった分野は医薬品、食品、安全性生物試験の各部門の間を支える部門である。猛暑の中参加いただいた衛研の研究に深いご理解のある皆様には、心から感謝申し上げる”と述べるとともに、“衛研のレギュラトリーサイエンス研究活動を広く紹介させていただく機会として、今後も衛研シンポジウムを企画し、開催を継続したい。”と挨拶を締めくくった。

表 2014年衛研シンポジウムの演題一覧

- 第一部 革新的合成医薬品・再生医療 実用化のために
- ①病気の原因となるタンパク質を狙って壊す 新しい創薬手法の開発 機能生化学部 内藤幹彦
 - ②創薬のための分子設計 有機化学部 栗原正明
 - ③新しい治療法として再生医療を実用化するための科学的な課題 遺伝子細胞医薬部 佐藤陽治
- 第二部 化学物質のリスク管理のために
- ④生活環境の安全をはかる 生活衛生化学部 五十嵐良明
 - ⑤国際的に注目された化学物質のリスクに関する話題 安全情報部 畝山智香子

<http://www.nihs.go.jp/oshirasejoho/symposium/>に当日の詳細資料を掲載。